

# **太田市自分ごと化会議 2021 からの提案**

**太田市自分ごと化会議 2021**  
令和4年3月

# < 目 次 >

～ はじめに ～	- 2 -
1 「太田市自分ごと化会議 2021」実施概要	- 3 -
2 地域コミュニティを考える必要性や意義	- 5 -
3 地域コミュニティの目指す姿とその姿に近付くための方法	- 7 -
I 命と暮らしを守るコミュニティを目指して！	- 8 -
テーマ1:安心安全	- 8 -
テーマ2:近所付き合い	- 13 -
II 元気で楽しい地域をみんなでつくることを目指して！	- 16 -
テーマ3:地域コミュニティの運営	- 16 -
テーマ4:地域の役員	- 23 -
4 ZY2022(ぜったいやるぞ 2022)	- 27 -
5 自分ごと化会議に出て気づいたこと、変化したこと	- 28 -
6 付録:アンケート結果	- 29 -
第1回会議参加者アンケート結果	- 29 -
第2回会議参加者アンケート結果	- 31 -
第3回会議参加者アンケート結果	- 33 -
第4回会議参加者アンケート結果	- 34 -

## ～ はじめに ～

太田市長 清水 聖義 様

昨年の11月から始まった太田市自分ごと化会議では、今年の3月までの間に全4回の会議を開催し議論を重ねてきました。この会議には、無作為に抽出された600名の中から参加を希望した22名が参加して話し合いを進めてきました。

今回の会議の参加者には、元々太田市に住んでいた方もいれば、市外や県外から引っ越してきた方もいます。年齢や、職業、経歴も多種多様なメンバーがそれぞれの経験をもとに意見を交わしながら交流を深め、活発な議論を行うことができました。

第1回での少し緊張感のあった自己紹介に始まり、第2回では少人数のグループに分かれてアイデアを出し合い、第3回、第4回会議では、「地域コミュニティの目指す姿」を真剣に議論しました。

今回、そうした議論の結果見えてきた「地域コミュニティの目指す姿」を4つにまとめ、提案書を作成しました。

この提案は、住民(太田市民)から行政(太田市役所)への提案という意味合いだけではありません。

「地域コミュニティ」がこれからも持続していくためには、行政だけではなく住民も共に「自分ごと」として取り組んでいく必要があります。

この提案が行政だけでなく、住民のみなさんにも届くことを願っています。

全4回の議論を重ねる中で得られた様々な気づきがこの提案書には、載せられています。

この提案書を太田市が有効に活用していただくことを強く望むとともに、こうした、まちの抱える問題を「自分ごと」として考える取り組みが、今後も続いていくことを期待しています。

令和4年3月  
太田市自分ごと化会議 2021 委員一同

# 1 「太田市自分ごと化会議 2021」実施概要

## ○委員・太田市職員・コーディネーター

無作為に抽出し会議委員の案内を送付した数	600 件
応募した委員(応募率)	25 人(4.1%)
参加した委員の数	22 人

## ○委員

石井 企実子	大熊 英嗣	小澤 正吏	金子 沙織	久保田 悟
小泉 貴代江	澁澤 ももこ	嶋村 友希	高橋 良輔	利根田 美貴
中村 悟市	中村 駿太	西村 美弥子	萩原 佳代	長谷川 孝行
藤生 健吾	堀口 未来	諸林 孔明	矢野 昌克	矢作 正夫
横山 亮太	吉羽 新一			

## ○太田市地域総務課

- ・稲村 真理子
- ・小林 茂之

## ○一般社団法人構想日本

<コーディネーター(議論の整理役)>

- ・高澤 良英 (千葉県市原市 企画部長)

## ○テーマ及び各回の議論

テーマ:「地域コミュニティ」

開催日:

- ・第1回会議:2021年11月20日(土)
  - ・自分ごと化会議の概要説明(太田市企画政策課)
  - ・テーマに関する太田市の概要や現状の説明(太田市企画政策課・地域総務課)
  - ・委員の自己紹介など
- ・第2回会議:2021年12月11日(土)
  - ・第1回会議振り返り
  - ・テーマについて議論、「記入シート」の記入など
- ・第3回会議:2022年2月27日(日)
  - ・第2回会議振り返り
  - ・テーマについて議論、「提案シート」の記入など

- ・第4回会議:2022年3月19日(土)
  - ・第3回会議振り返り
  - ・提案書素案を基に議論、「意見提出シートの記入など」
  - ・委員からのこれまでの会議の感想、「ZY2022」の発表

## 2 地域コミュニティを考える必要性や意義

「太田市は暮らしやすいまちで、地域で特に困っていることって言われても思いつかない…」 「地域活動で“？”と思うこともあるけど、自分じゃ変えられない…」 「仕事で太田市に引っ越してきたけど、特に地域とのつながりがない…」 「地域に様々な役員があるけど、罰ゲーム感があって何か嫌だな…」

といった地域コミュニティに対する率直な意見が出される中、大学生の委員から「もし災害が起きたとき、一人暮らしの高齢者を避難所に案内するなど、今のままで本当に大丈夫なのでしょうか？」という問いが投げ掛けられました。この問いに誰も大丈夫だよと答えることは出来ませんでした。

地域コミュニティは空気のようなもので、目に見えないから、いざ、災害など非日常の状態になったとき、その大切さに気付くのかもかもしれません。

また、太田という地域で暮らす中で、人と人とのつながりや、優しさ、思いやりは都会にはない大切なものではないでしょうか。

阪神淡路大震災や東日本大震災、全国各地で頻発する大規模自然災害、新型コロナウイルス感染症の広がりなど、私たちは今、未曾有の経験をしています。

自助・共助・公助という言葉は、こうした災害が起きるたびに注目され、見直されてきました。自助・共助・公助いずれも重要ですが、近年、地域力の衰えが全国のまちで顕著になっています。地域力が衰え、自分の身を自分で守ることに傾注し、地域に目を向けることが減って、行政はこれまで以上に仕事が増えています。これまで地域で頑張ってきた仕事を行政が担うこととなり、そのことで益々地域力が衰えるという悪循環は、どのまちでも深刻です。

新型コロナウイルスと闘っている未曾有の経験をしている今だからこそ、地域の支え合い、地域の人と人とのつながりの大切さについて、みんなで考えることが必要です。

新型コロナウイルスの濃厚接触者だった委員から「7日間の自宅待機中に隣人が食べ物をお裾分けしてくれてとてもありがたかったし、気持ち的にも助けられた。」という発言がありました。「食べ物」はもちろんですが、地域の支え合いは「気持ちの支え」です。地域において気持ちが支えられるとき、近所付き合いがうまくいっているとき、生活の幸福度が上がるという意見もありました。

災害に限らず、行政ではなかなか目の届かない一人暮らしの高齢者や障がい者の支援においても地域の力は重要です。「介護や子育ては家庭だけでどうにもならないケースもある。」という切実な声も聞こえてきます。

人口減少、少子高齢化などの社会の変化に伴いこれまでの地域コミュニティのあり方では若い人たちを取り込めないなど、若い世代の参加が課題になっている地域も多くあります。「緩いつながりであってほしい。」「共感できる活動には参加したい。」という若い人たちの声もあります。改めて、地域コミュニティのあり方を考

え、地域のみinnでまちづくりの担い手を育てる必要があります。

地域コミュニティの重要性について再認識し、子どもから子育て世代、高齢者まで国籍に限らず誰もが主人公となり、互いの意思を尊重しながら協力・連携して、豊かな地域をつくる必要があります。

そのためには、豊かな地域づくりのための仕組みを考えることが不可欠です。私たち個人や地域や行政が連携して、その仕組みづくりを考えるため、太田市自分ごと化会議を開催し、様々な議論を重ねてきました。この機huiは極めて大きな意義のあるものだと思います。地域のことを一人一人が「自分ごと化」するきっかけになりました。この経験を活かし、太田市の地域コミュニティの未来について、ひいては太田市が幸せなまちとなるよう、引き続き考え、行動していきたいと思ひます。

### 3 地域コミュニティの目指す姿とその姿に近付くための方法

私たちは「地域コミュニティ」をテーマとして、これまでの地域コミュニティの関係性とは違った、「新しい地域コミュニティの姿」を描くことに挑戦しました。

これまで全4回の議論を重ね、「地域コミュニティの目指す姿」と、「その姿に近付くための方法」を話し合いました。

このような議論の結果見えてきたのが以下の4つの目指す姿です。

4つの目指す姿に近付くための方法を、「私たち市民」、「地域」、「行政」が、それぞれ取り組んでいくことに分けて記載します。

#### I 命と暮らしを守るコミュニティを目指して！

##### テーマ1:安心安全

目指す姿 1	誰もが住み続けたいと思える 安心安全なコミュニティ
-----------	------------------------------

##### テーマ2:近所付き合い

目指す姿 2	互いに支え合うことのできる Win-Win な近所付き合い
-----------	----------------------------------

#### II 元気で楽しい地域をみんなでつくることを目指して！

##### テーマ3:地域コミュニティの運営

目指す姿 3	誰もが主体的に参加できる、幸せを実感できる 地域コミュニティ
-----------	-----------------------------------

##### テーマ4:地域の役員

目指す姿 4	誰もが安心してやりがいを持って活動できる 地域コミュニティの役員
-----------	-------------------------------------

# I 命と暮らしを守るコミュニティを目指して！

## テーマ1:安心安全

目指す姿

1

誰もが住み続けたいと思える  
安心安全なコミュニティ

目指す姿に向けてどんな課題があるのか？

- 子どもから高齢者まで誰もが安心・安全に暮らすために、地域コミュニティで日常生活(子育てや移動手段など)や、有事の対策(防災や防犯など)にできることはなんだろう。
- 地域コミュニティの住環境をより良くするためのルール(ゴミ出しや地域のルールなど)は、どうしたらよいだろうか。

～このほかにも「こんなコミュニティは困る！嫌だ！」という声がありました～

防災	➢ 高齢者がどこに住んでいるのか分からないので、災害の時に助けられない。
交通安全	➢ こどもの見守りが少ない。旗ふりが少なくなった。 ➢ 旗当番では、本当に危ない場所に立っていない。危ない場所を調べて、そこに当番が立ってほしい。 ➢ 道が暗い。街灯が少ないので、夜道が怖いところがある。 ➢ 道が狭いのに、路駐が多いところがある。 ➢ 植木が敷地外に出ているところがある。 ➢ 道路の動物の死骸はどこに相談すればいいかわからない。 ➢ 通学路になっている歩道の狭い道路。古くてガタガタ、白線も消えかけていて危ない。直してほしいと思っても相談がしにくい。
子育て	➢ 未就学児とその家庭の子育てをフォローする役員が決められておらず、学校も関わっていない段階なので、取り残される。
空き家	➢ 数年前から近所の空き家で困っている。動物が入り込んだり、火事にでもなったりしたら大変な事になる。
買い物	➢ 一人暮らしの高齢者が増えているが、人口減少によりお店が減っている。
交通	➢ 公共交通機関(民間のバスやコミュニティバス)が少なくて不便。
ごみ	➢ ごみ収集所の不法投棄が止まない ➢ ルールを守らない人がいるが、その人を特定できないので指導できない。
地域のルール	➢ 区の独自ルールがある。(家のブロックの段数、家屋の高さ等)。

《委員が実際に体験したエピソード》



- 登校途中の旗振り、危ない場所が2か所あるが1か所にしか人が立っておらず、もう一つの場所に誰か立って欲しくないかと思っている。
- 公共の交通機関はあまり便利でない。高齢者は免許を返納してしまうと移動しづらくなってしまいう問題もある。
- 狭い道路のところでは家から木がはみ出ているが、誰に相談したらいいのかわからない。
- 大雨で冠水した時に見回りの消防車のはまってしまったことがあった。

## 目指す姿1に近付くための方法

日常生活から地域の人たちへの声かけや付き合いを大切にする。また、地域の中には既に、地域を守る活動(消防団や旗振り)や、地域のつながりを作る活動(子育て、教育のコミュニティ)がある。そうした活動を個人、地域、行政がそれぞれの立場に関わりサポートすることで、地域住民一人一人の繋がりが生まれ、地域の困りごとや危険箇所をみんなが共有することができる。それは災害や犯罪の対策になり、安心安全の地域コミュニティづくりの土台になる。私たち市民は、地域を大切に思う気持ちを強くもち、諦めずに根気強く関わり、行政はそうした活動や声にスピード感を持ってサポートする。



## 目指す姿1に近付くための具体的な方策

私たち 市民	<ul style="list-style-type: none"><li>① いざという時に助け合える関係づくり<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 災害などいざという時に高齢者や障がい者が孤立しないよう、普段から挨拶や声かけをして、助け合える関係をつくる。</li></ul></li><li>② コミュニティへの参加<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 自分の子どもと同世代またはそれより若い世代(自分にも経験のある子育てでサポートできる)を抱える家庭にも呼びかけて、一緒に地域の子育て・教育コミュニティへ参加する。</li><li>➢ 地元の消防団に所属し、地域の小学校や保育園、幼稚園で地域活動の授業や避難訓練に参加する。</li></ul></li><li>③ 地域のルールを守る<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 車を運転する際は速度違反などをせずに安全運転をする。通学時間帯は特に気を付ける。歩行者優先厳守。</li><li>➢ 自分の家が利用するごみステーションが荒れていないかごみ出しの時にチェックし、ごみが散乱していたら片づけて道路に影響が出ないようにする。</li></ul></li><li>④ 空き家への対応<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 地域内にある空き家を見つけたら区長に報告する。</li></ul></li></ul>
地域	<ul style="list-style-type: none"><li>① 個人間では解決しない問題への関わり<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 個人間だけでは解決できない問題に、行政ほどの事業は出来なくとも、個人を超えた第三者的・中立的な立場として地域コミュニティが関わる(空き家や猫、ゴミ出し問題など)。</li></ul></li><li>② 多様な世代の交流と助け合いの仕組み<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 高齢者、子育て世帯、子ども達が、お互いに助け合って地域の困り事を解決できる仕組みをつくり、続けて取り組んでいく。</li><li>➢ 高齢者と子どもが交流できる地域のイベントを増やす。</li><li>➢ 学童クラブに入れなかった子供が集まれる場所(居場所)や子ども食堂など子どもたちが安心して過ごせる場所を地域の中につくる。</li><li>➢ 子ども同士や子どもがいる家庭同士がつながりあえるような橋渡し役とな</li></ul></li></ul>

	<p>る、すべての子どもがいる家庭を網羅できるコミュニティを地域につくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ (犯罪に利用されないように工夫した上で)地域内の高齢の一人暮らしの方の MAP を作るなどして、地域にそうした方たちがいることの認知が進むようにする。</li> </ul> <p>③ 「地域を守る活動」を地域全体でサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域内のスクールゾーンや一方通行路の設定、標識が適正かチェックをする。</li> <li>➤ 地域内に通行人・車と接触して荒れたり通行を妨げたりするようなごみステーションがあれば場所の見直しを提案する。</li> <li>➤ 消防団が地域の理解を得て活動を続けていけるように、また団員が増えるように協力する。</li> <li>➤ 地域内の空き家を行政に報告して持ち主との協議を促す。</li> <li>➤ 街灯の増設や劣化して暗くなっているものの交換を行政に要望する。また監視カメラの設置を検討してもらえるように要望する。</li> </ul> <p>④ 地域を大切に思う気持ちの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域を大切に思う気持ち、良くしようと思う気持ちを強く持ち、ごみなどの問題にあきらめずに根気強く取り組む。</li> <li>➤ ごみ捨てのルールなど、誰か守らない人がいると、自分もいやとなってしまう。人間関係が希薄だとルールが守られない傾向もあるので、普段からのつながりを大切にしていく。また、引っ越してきた人にはしっかりとルールを説明する、すでに住んでいる人にも再周知をするなど、みんなで地域の環境を守れるようにする。</li> </ul>
行政	<p>① 子どもの居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 子ども食堂や子供の居場所作りのために、使われていない公民館や地区の会館を開放する。また、子ども食堂の運営のために(学校終わりの高校生からお年寄りまでを対象に)ボランティアを募集する。</li> <li>➤ 地域コミュニティが主体となつてつくる、「子育て・教育コミュニティ」の運営をサポートし、地域差なく機会を提供する。(場合によっては民間等に地域単位で集まることができる子育て・教育サービスの提供を依頼する。)</li> </ul> <p>② 高齢者の孤立化の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 高齢者の孤立を防げるように、高齢者のデジタル化を支援する。(スマホ教室実施、警備会社と連携した見守りシステムの導入など)。</li> <li>➤ 移動スーパー(とくし丸など)の普及が進むように、運営補助金等で支援する。</li> </ul> <p>③ スピード感を持ったサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 各地域コミュニティからスクールゾーンや一方通行路の不具合の意見を収集して、是正する。</li> <li>➤ 一般車の交通量を減らせるようコミュニティバスの運行を増やす。(バスに</li> </ul>

広告を出せるようにしてその収入はコミュニティバスの運行のために使う。)

- 街灯の設置費用や電気代、維持費、監視カメラの設置費用に予算や補助金をつける。
- 空き家問題で持ち主の許可を取り、行政で動いてほしい。かかった費用は持ち主負担で。
- 暗い夜道などの警察のパトロールを強化して安心して歩けるようにする。
- 地域が地域を良くしようと行動することに対してスピード感をもってサポートする。
- 有事の際(停電があった時など)に現状や対策などの情報を住民に伝えられるよう工夫する。

## テーマ2:近所付き合い

### 目指す姿 2 互いに支え合うことのできる Win-Win な近所付き合い

目指す姿に向けてどんな課題があるのか？

- 誰が住んでいるか分からない、冷たい近隣関係は嫌だ！
- ちょうどよい近所付き合いの仕方がわからない。

～このほかにも「こんなコミュニティは困る！嫌だ！」という声がありました～

ご近所	<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 近所付き合いが無い、近所の人分からない。</li><li>➢ 近所付き合いの距離感がつかめない。</li><li>➢ 近所付き合いが難しい。(気を遣う)。</li><li>➢ 子どもくらいしか近所と仲良くなるキッカケがない。</li></ul>
助け合い	<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 昔は冠婚葬祭や側溝掃除、回覧板など、地域の人で助け合うことが多かったが、今では民間業者やインターネットなどの充実により、地域の人が介入しなければならないことがなくなってきている。</li><li>➢ 高齢者が増えて、ごみ捨てなどできない人もいる。</li></ul>
情報共有	<ul style="list-style-type: none"><li>➢ アパートに回覧板が回ってこないから「地域コミュニティ」の意識が湧かない。</li><li>➢ 集合住宅に地域情報が届きにくい。</li></ul>
外国人	<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 外国人の住民も増えてきているが中々付き合いがない。例えばごみ出しのルールなどの話を伝えたくてもなかなか上手くいかない。</li></ul>

#### 《委員が実際に体験したエピソード》



- 近所の高齢者世帯のお庭の草むしりをする代わりに、友人が我が家を訪問したときに車を置かせてもらうなど Win-Win の近所付き合いをしている。
- 転入時、地区のことや、学校、行事など何もわからなかった。たまたま引っ越した先の周囲の昔から住む人が親切だったので地区のことを教えてくれて助かった。
- アパートに引っ越してきた人に自治会加入の案内が届かないこともあった。
- 人のつながりによって情報を得て問題を解決できるケースがある。

## 目指す姿2に近付くための方法

良好な近所付き合いが生活の幸福度と密接な関係にあると考えている市民が多い。

ご近所の助け合い(GIVE&TAKE)が互いのWin-Winの関係をつくり、良好な近所付き合いが生まれていくと考える。そのスタートは「何気ないあいさつ」であり、地域行事などに積極的に参加する勇気だと思われる。それにより生活の満足度を高められるご近所がつくれると思う。さらに、いざという時などの困りごとに対処するための日頃のサポート体制づくりにも繋がられる。

地縁的なつながりのほか、子育てや趣味など、ご近所同士、共感できるテーマごとのつながりをつくり、活動することも良好なご近所の関係につながると思う。

また、外国人との良好なコミュニケーションの構築も欠かせない。外国人と共生する地域を構築するため、翻訳アプリなど有効なツールを十分に活用したい。



## 目指す姿2に近付くための具体的な方策

私たち  
市民

### ① Win-Win な関係

- 自分のお手本となるような、ご近所と助け合う Win-Win の近所付き合いをする。
- 笑顔と真心で支えあう。

### ② あいさつから築く良好な関係

- 近くもなく、遠くもなく、程良い距離を保てるお付き合い。
- 他人に無関心にならず積極的にコミュニケーションをとっていく。
- 良好な近所付き合いは生活の幸福度とリンクしている。普段の何気ないあいさつから始めて、ご近所と顔の見える良好な関係を築いていく。
- 新しく地区に入ってくる人に自分からあいさつするなど、気軽に関わりを持つようにする。

### ③ 地域行事への積極的な参加

- 近所の人と顔を合わせることでできる地域行事(地域清掃など)に参加し、近所の人と関係性を築ききっかけをつくる。

### ④ 外国人との積極的なコミュニケーション

- スマホの翻訳アプリなどを使って簡単なあいさつから始めてみるなど、外国人の住民とも身近なコミュニケーションから関係性を築く。

地域

### ① 誰もが参加できる地域イベント

- 地域の清掃など、誰もが参加できる地域のイベントを企画する。(昨今は地域行事でもないとなかなかご近所との接点ができないと思う。顔見知りになって交流が生まれるきっかけづくりをする。)
- お互いに声をかけやすい雰囲気を地域に作っていく。
- 新しく地区に入ってくる人に対して受け入れる側からあいさつをするなど、構えすぎない気軽で気楽な近所付き合いができるような雰囲気を地域に

	<p>作っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 集合住宅へも回覧板を回す。</li> </ul> <p>② 共感できるテーマの設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域の中に同じテーマ(例えば子育て世代など)でつながれる場を作り、新しく入ってきた人が溶け込みやすい環境をつくる。</li> </ul> <p>③ 外国人との積極的なコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 外国人の住民の価値観や文化を理解し、認め合って一緒に暮らせる地域をつくっていく。</li> <li>➤ 外国人の方へも地域の情報が伝わるような仕組みを考える。例えば母国語で読めるようなお知らせを作るなど。</li> <li>➤ 外国人の住民にゴミ出しなどのルールを説明する際には、翻訳アプリや外国語で書かれたパンフレットなどを活用して母国語で対応できるようにする。</li> </ul>
行政	<p>① Win-Win の好事例の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ Win-Win な関係づくりができていご近所コミュニティの好事例(GIVE &amp; TAKE)を発信する。</li> </ul> <p>② 行政情報の多国語化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 外国人の住民が地域で安心して暮らせるように情報提供を母国語で行うなどしてサポートする。</li> <li>➤ 外国人の住民向けに地域から情報をお知らせする場合や、地域で生活する上でのルール(ごみ出しなど)を説明する場合にそれが伝えやすくできるように支援する。(外国語で書かれたパンフレットを用意するなど)</li> <li>➤ 外国語に対応した行政サービスの案内文などをより一層充実させる。地域役員や住民がコミュニケーションをとる際の補助になるようなものを充実させる。</li> </ul>
その他 (民間企業など)	<p>① 地域と連携した外国人住民のサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 【企業】地域と協力して、外国人の従業員にごみ出しなど地域のルールを説明する。</li> </ul>

## II 元気で楽しい地域をみんなで作ることを目指して！

### テーマ3:地域コミュニティの運営

#### 目指す姿 3

誰もが主体的に参加できる、幸せを実感できる  
地域コミュニティ

目指す姿に向けてどんな課題があるのか？

- 若い人たちが活動に参加できない、参加しにくい。
- 子どもの居場所がない。
- 区費の使い道がよく分からない。
- 誰のためのイベントか分からない。そのイベントを必要とする人たちが楽しめない。
- 毎年、同じイベントしかやらない。
- 地域活動や、子ども食堂などの情報が必要な人につながない。

～このほかにも「こんなコミュニティは困る！嫌だ！」という声がありました～

年功序列	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 高齢者・長く住んでいる人の意見が強く、引っ越してきた人、若い世代の参加や意見が出しにくく、運営に反映されない。</li> <li>➢ 高齢者が権力を持ってしまっていて、勝手にルールを決めてしまう。</li> <li>➢ 若い世代が参加できないイメージがある。</li> <li>➢ 物事に対して若い人の意見が少なく、高齢者の意見が強い。</li> </ul>
コミュニティ スペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 地域の〇〇会館があまり活用されていない。</li> <li>➢ 子どもの遊ぶスペースがない。</li> </ul>
見える化	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 地域のいろいろな情報が住民につながない。</li> <li>➢ 区費の使い道が還元されている実感が湧かない。</li> </ul>
マンネリ化	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 地域の活動や役員の仕事がマンネリ化してしまっている。</li> </ul>
誰のため	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 地域のイベントを子どもが楽しめない、いやいや参加している。 (大人が楽しんでいるだけでは？)</li> <li>➢ 「子どものためのイベント」が「大人がやって満足するイベント」になっている。</li> <li>➢ 子どものために企画しているイベントなのに、役員を中心として話が進んでいる。</li> </ul>
前例踏襲	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 昔からやっているから、という理由で続いている行事が多い。</li> </ul>

## 《委員が実際に体験したエピソード》



- 介護や子育ては家庭だけでどうにもならないケースもあり、女性の負担が大きくなっていると思う。
- 地域で協力して草刈りをし、1%まちづくりを活用し蓮の池を作ったという事例もあった。
- 地域のイベントは子どもが楽しんでいない。親が役員だから仕方なく参加させられていることもある。
- 子供の見守りが少なくなり、旗振り(スクールガード)の人数も減った。
- 高齢者の方が増えていて、認知症のケアが大変。高齢者にとってはごみ捨ても大変なこと。
- 地域のお祭りやかるた大会などをやっても、役員が中心になってしまっている。
- ごみを出そうと思ってもごみ捨て場がすでにいっぱい出せないことがある。
- 引っ越してきても自治会からゴミ出しのルール説明等もなく、出し方もわからないし回覧板も回ってこない。
- ごみステーションの広報が日本語でしか書かれていないため、外国人の方は理解できない。

## 目指す姿3に近付くための方法

仕事をもちながら地域コミュニティ活動に積極的に参加することが難しいという人は多いが、それぞれが地域のつながりの大切さを認識する必要性はあるという意見があった。自主的な地域コミュニティ活動であるがゆえに「仕事をもちながら」時間的制約のある中での参加が難しいのは否めない。そうした人たちが「地域のつながりの大切さを認識する必要性」を感じていることは財産だと思う。

その基盤に立って、「まず、できることから自分で行動する。」という基本姿勢が大事である。その先に「誰もが主体的に参加できる」仕組みをつくることができると思う。

その仕組みは、「若い世代が活躍できる場」であり、「子どもたちが楽しめるイベント」であり、「デジタルを活用した効率的な地域コミュニティ運営システム」である。

こうした仕組みづくりを進め、「誰もが主体的に参加できる、幸せを実感できる地域コミュニティ」を作りたい。



## 目指す姿3に近付くための具体的な方策

私たち  
市民

### ① まず自分から行動

- 地域のボランティア活動に対して興味をもち、まずは簡単なものからでもやってみる。
- 親世代のデジタル化を助けるために相談にのる。
- 近所の役員さんにオンライン会議などのやり方に困難がないか声をかける。

### ② 地域のつながりの大切さの認識

- 様々な世代が地域コミュニティに関われる方法を考える。
- 地域の中に人が集まれる場所(居場所)をつくる際に運営を手伝う。
- 同じ目標や考えを持つ人を繋いで地域だけで無く、町を元気で住み良い地域にする。
- 仕事をしながら積極的に地域活動に参加することは難しいが、地域のつながりの大切さをしっかりと認識する。
- コロナ禍でイベントごとはすべて中止になった。これからのイベントの運営方法を今まで通りに開催することは難しいのが現状なので、今後はコロナ禍でもできるイベントや、地域交流の方法を考える。

### ③ 積極的な提案

- 自分の地域にこんなイベントや取り組みが必要ではないかということ提案していく。
- まずは自分の興味、関心のあることなどでもいいので、地域の中でやってみたいこと、イベントとしてやってみたいことのアイディアを積極的に提案する。
- ネットを利用した地域コミュニティの実現に向けてネット環境の整備を行政

	<p>に提案する。</p> <p><b>④ 地域活動への主体的な参加</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域のお祭りなどのイベントに単なるお客さんとして見に行くのではなく、能動的に参加者として参加し、イベントと一緒に盛り上げていく。</li> <li>➤ 伝統的な祭礼や行事を後世に引き継ぐため、ノウハウを記録に残す。</li> <li>➤ 小学校 PTA, 中学校 PTA, 育成会との話し合いに参加する。</li> </ul>
<p>地域</p>	<p><b>① 若い世代が活躍できる地域</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 若い世代が自由に発言できる、やりがいを感じられる運営方法に見直す。</li> </ul> <p><b>② 人が集まる居場所づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 様々な世代が地域コミュニティに関われるように、地区や地域の〇〇会館などの空き時間は誰でも気軽に立ち寄れる場(例えば Café など)として開放して、高齢者から子どもまで世代を越えて交流し、笑顔で支え合える場を増やす。</li> <li>➤ 子ども食堂のように、地域の中に人が集まれるような場所(居場所)を作る。</li> <li>➤ 子ども食堂の中に制服バンクを作り、その場所で制服を誰かに提供できるようにすることで困っている世帯の人たちへの支援にもつなげていく。</li> </ul> <p><b>③ 時代に合った新しい活動の導入</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 人口減少でも、地域の活動ができるように、近隣の地域と連携して運営する。</li> <li>➤ 1%まちづくりなどで、地域の方がつながって、地域活動が出来る様にする。</li> <li>➤ 地域住民に地域での困りごとなどのアンケートを行う。</li> <li>➤ それぞれの役員間や地域間で地域の課題やその解決方法などの情報共有を行う。</li> <li>➤ 他地域の事例を調べ、その年ごとに自分の地域の課題解決に向けた目標を立てることで、地域の活動や役員の仕事のマンネリ化を防ぐ。</li> <li>➤ 毎年同じ地域活動をするのではなく積極的に新しい活動を取り入れる。</li> <li>➤ 新たな取り組みを始められるように、デジタル化や既存フォーマットの活用を進めて、地域の各種業務の効率化を図る。</li> <li>➤ 地域のボランティア活動を推進するため、行政と連携して広報及び募集をする。広報する時には詳しい要項も載せて、ボランティアに興味のある人が、興味があって参加できそうな活動を自分たちでまず探せるようにする。</li> <li>➤ 住民から地域コミュニティの中でやりたいと提案されたものを予算や労力などを勘案してサポートする。また、市の協力が不可欠なものの場合には仲立ちをする。</li> <li>➤ 自分たちの地域を住みやすくするために何ができるのか、自分たちで考えるチームをつくって活動する。</li> </ul>

- 地域で暮らす人や自治会、各種団体等が協力・連携し、地域のことを主体的に決定しながら、より住みやすい地域を自分たちの手で作り上げていく
- 地区公民館の活動範囲や小学校区を活動エリアとしたチームを作り交流を深める。
- 地域の魅力や課題の把握を地域住民が一体となって行い、地域振興を図る。
- 高齢者の日常生活の問題や災害時の要援護者の対応など、地域住民が主体的に支え合う地域をつくる。
- 単独では自主防災活動が実施できない行政区と隣接行政区が連携する。
- 行政区の地域特性を踏まえた防災活動を行う。
- 地域における子育てや社会教育に対する課題を解決するために、地域の魅力を次世代へ伝える人づくりと地域活動を行う。

#### ④ 地域活動のデジタル化の推進

- デジタルを利用して高齢化社会に合ったコミュニティを作る(ZOOM 会議など)。
- 地域の広報活動や役員の活動の中で積極的に自分たちからデジタル化を進める。
- 役員会議などをオンラインで行えるように、オンライン会議に慣れている若い世帯が、慣れていない人に教える。
- ネットを利用した地域コミュニティを実現するための方法を地域で共有する。またその実現に向けて行政に働きかける。

#### ⑤ 世代を超えたみんなで楽しめるイベント

- 高齢者から子どもまで幅広く参加できて交流ができ、大人も子どもも楽しめるイベントを開催する。
- みんなが楽しいと感じられるお祭りを開催する。
- 世代間交流が出来るイベントを開催できるように、小学校、中学校の PTA 及び育成会と地域との会議を実現させる。
- 老人会と育成会が合同で地域イベントを開催するなど世代間交流ができるようにする。
- 企画運営する側も参加する側もわくわくするような、楽しい地域イベントを企画する。
- 地域の人からイベントのアイデアを広く募集する。意見を提案した人だけに責任を押し付けず、イベントの実現に向けて地域で協力する。
- 意見を聞かずに楽しいだろう楽しいはずだという考えで既存のイベントを続けるのではなく、どんな企画なら参加したいのかどうしたら参加したくなるか、幅広く意見を聞いてイベントを企画する。
- 伝統的な祭礼や行事を後世に引き継ぐため、ノウハウを記録に残し、地域で共有できる仕組みをつくる。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 輪投げ、ペタンク、ボッチャ、スカットボールなど高齢者と子供たちが一緒に取り組めるものを紹介する。</li> <li>➤ 区長や老人会役員が相互に協力連携する。</li> <li>➤ 春、秋のクリーン作戦や、廃品回収など年に数回地域の人が集まれる時間を作る。</li> <li>➤ リタイヤ組を地域のボランティア活動に取り込む。</li> </ul> <p>⑥ <b>子どもたちが楽しめるイベントの開催</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 子どもたちや若い人など色んな世代が企画段階から参加してみんなでイベントをつくりあげる。</li> <li>➤ 将来地域に帰ってきたいと思えるような、思い出づくりができて、地域に対する誇りや愛着を持てるようなイベントを企画する。</li> </ul> <p>⑦ <b>コロナ禍やコロナ後における地域活動の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ コロナ禍でもできる非接触型のイベントの開催方法のアンケートを全世帯対象にデジタルで取る。</li> <li>➤ コロナ禍でもできるイベントを小中学校や PTA、育成会、地区役員と協議して安全な方法で行う。</li> <li>➤ コロナが流行したことでわかった形骸化した地域活動はやめることも検討する。また、コロナでできなくなっている必要だと思う地域活動はコロナの流行状況も見ながら徐々に復活させていく。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>行政</b></p>	<p>① <b>地域間の交流促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 上手くいっている地域の好事例や、こども食堂・スマホ教室・イベント・独居高齢者対策などの成功事例を市内の他の地域コミュニティに情報共有できる仕組みをつくり、市内全体の底上げにつながるようにする。</li> <li>➤ それぞれの役員間や地域間で地域の課題やその解決方法などの情報共有ができるようにサポートする。また、情報共有する際のフォーマットをつくって効率化できるようにする。</li> <li>➤ それぞれの地域にどんな課題があり、活動にどんな目標を立てて取り組んでいるのか情報を集め、共有する。</li> <li>➤ 地域コミュニティ活動のノウハウ(名簿や会計書類などの事務フォーマットやイベント運営フォーマット)を各地域に情報共有し、活動をサポートする。</li> </ul> <p>② <b>地域のデジタル化への戦略的な支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域のボランティア活動などの情報を HP などにタイムリーに掲載し、活動の紹介をするなどして住民にボランティア活動を認知してもらう。</li> <li>➤ 地域のボランティア活動の情報をデジタルツールで発信できるように、デジタル化のサポートをする。(若い世代の参加を期待するのであればデジタル化は必須)</li> <li>➤ 地域のデジタル化を戦略的に推進する。毎年予算を割り当てる、必要な世帯へはタブレットを貸与して全世帯のデジタル化を目指す、など他の市町村</li> </ul>

よりも進んだ取り組みをする。

- 行政の Platform のセキュリティを継続的に強化し、市民が安心してデジタルツールを使えるようにしていく。
- コミュニティ運営のデジタル化を進めるため、役員会議をオンラインで行えるようにするための ZOOM 教室を開催する。
- ネットを利用した地域コミュニティを実現するための環境整備を支援する。
- SNS での共有など、旬な情報がすぐ分かるためのサイトを作る。

### ③ 部門横断的な地域コミュニティの支援体制

- 地域の中に人が集まれるような場所(居場所)を地域住民が作りたいなど、住民から何かを地域でやりたいと要望があった時に、予算や場所等、支援、後押しをする。
- 若い世代や転入してきた人たちが地域の年長者たちに意見を言いづらいこともあるため、地域コミュニティの運営方法について住民の困っていることを見える化して、行政が第三者的な立場で情報提供する。
- 地域コミュニティについて住民から良いアイデア、提案があった時には、その挑戦を応援、後押しする。
- 地域のボランティア活動へのリタイヤ組の参加を支援する
- 地域コミュニティの支援体制を縦割りから部署横断的な体制に見直す。
- 地域コミュニティから自主事業に対するサポート依頼があったとき、必要な事前評価をした上で、必要なサポートをする。
- サポート事例の事業成果を公表し、他の地域コミュニティの事業活動の先例としてもらう。
- 地域コミュニティの新しい取組みのスタートアップに際し、相談、指導などの支援をする。
- 輪投げ、パタンク、ボッチャ、スカットボウルなどの道具の調達を支援する。
- 祭事に対し、警察への協力依頼をする。

### ④ 地域イベント支援情報の積極的な発信

- 地域でイベントを行う際に補助金を多く出す。
- 小さいコミュニティ同士で合同のイベントを開催するときに支援をする。
- 上手くいっている地域イベントの事例などを取り上げて区長会等で紹介する。
- 地域でイベントを行う際の開催場所の確保を支援する。
- 地域イベントに対する行政のサポートに関する情報を行政が地域コミュニティに提供する。

## テーマ4:地域の役員

### 目指す姿 4

### 誰もが安心してやりがいを持って活動できる 地域コミュニティの役員

目指す姿に向けてどんな課題があるのか？

- 地域コミュニティの役員は負担が多く、後任も見つからず大変そう…。
- 自治会などのコミュニティに参加すると役員を任せられそうだから加入したくない…。

～このほかにも「こんなコミュニティは困る！嫌だ！」という声がありました～

認知度	<ul style="list-style-type: none"><li>➢ これだけ多数の役員がいるのに住民に知られていない。</li><li>➢ 誰が役員なのか分からない。</li><li>➢ アパートに住んでいる場合、区長や役員に会う機会がない。</li></ul>
必要性	<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 困りごとに対応していない。</li><li>➢ やっていることにどれだけ意味があるか見えない。</li><li>➢ 役員の必要性を感じない項目が目立つ。</li></ul>
報酬	<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 民生委員など、無報酬でよいのか。</li></ul>
選考方法	<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 役員の選び方がよく分からない。区長推薦の基準は？もしかしたらやりたい人はいるのかも。</li></ul>
やり手不足	<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 役員のなり手がいない。大変なイメージが多い。</li></ul>
やりがい	<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 隣組など連絡係、集金員になっていて、目的意識や目標がなく、やりがいがない。</li></ul>
負担感	<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 集金が大変。</li><li>➢ 罰ゲーム感がある。1人だけに任せるのではなく、複数人で対応できないか。</li><li>➢ 働き方によって対応出来る、出来ないがある。仕事がどうしても優先される。</li><li>➢ 引っ越して来た次の年に、組長をやらなければならなかった。</li></ul>

### 《委員が実際に体験したエピソード》



- 地区内に親と子の2世帯で住んでいても、子世帯は役員をやらなくて良かったりする。それなのに、地区外から引っ越してきた若い世帯は「若いのだから参加しろ」と言われる。不公平感を感じる…。

## 目指す姿4に近付くための方法

役員の仕事内容も役員を今誰がやっているのかも良く知らない、また、知っていても大変そうだからやりたくないという声が会議の中では多く聞かれた。

まず私たちは、役員のことに関心を持って知ろうとするところから始めたい。そして、もし自分に役員をやってほしいという話があった時には断らず取り組んでみたい。

しかし、そのためには今の役員の仕事や仕組みの問題を洗い出して、行政と地域が一緒になって見直しやデジタル化を進めて効率化し、活動へのハードルを下げることも必要だ。また、その役員がなぜ必要なのかがわかることで役員への取り組み方も変わってくる。やりがいやメリットを経験者や助けられた側から生の声で伝えることも必要ではないだろうか。

役員をやりたいと思う人が増えれば、特定の人だけが負担をするのではなく地域の中で分かち合える、支え合えるようになる。

## 目指す姿4に近付くための具体的な方策

私たち 市民	<ul style="list-style-type: none"><li>① 役員への興味関心<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 各種役員の役割を知り、周囲に支援が必要な人がいたら情報を提供する。</li><li>➤ 地域の活動や役員のことに関心を持ち、他人事ではなく自分に何ができるか考え、参加やサポートができることがあれば積極的に参加する。</li><li>➤ 役員の仕事を現在引き受けている人から話を聞いたり、その人の仕事に協力・参加したりする。</li><li>➤ 地域内でデジタルに対応できない人へサポートする。</li></ul></li><li>② 自分なりの役員への挑戦<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 「頼まれごとは試されごと」と捉えて、役員を頼まれた時にはやってみて、自分なりに努力して取り組んでみる。</li><li>➤ よくわからないからという理由だけで役員になることを拒むことはせず、地域の仕事に積極的に参加する。</li><li>➤ 近隣の同じ役職の役員と情報を共有する。共有することで他地域のうまくいっている事例、うまくいかなかった事例などの情報を集め、自分の地域で活用する。また自分の地域でうまくいった事例、うまくいかなかった事例なども他地域に伝える。</li><li>➤ 役員への就任要請があった時には、目的意識を持って目的設定をして取り組む。</li><li>➤ 役員を務める際、実際にやってみて「ここはいらぬのでは？」と思った点などがあれば、今後やることになる人たちのためにも周りの住民や次の役員などに伝えて発信していく。</li></ul></li></ul>
地域	<ul style="list-style-type: none"><li>① 役員の仕事の見直し<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 行政と一緒に地域の活動を見直し、簡素化を図る。本当に必要な活動に対して必要な役員を配置して優先度の低いものは廃止、統合をする。</li></ul></li></ul>

- それぞれの役がなぜ必要なのか、そのために何をしているのか、地域の住民との相互のサポートが必要なものは何なのか、十分にコミュニケーションをとって認知されるように広報活動もする。
  - 役員の顔や仕事内容などをみんなが知れる機会を作る。
  - 地域の役員組織として具体的な目標を設定し、具体的な活動を実行する。また成果を振り返って地域コミュニティや行政に共有する。
  - 報酬を支払うなど役員の役割と責任について各地域に合った活動を進める。
- ② 役員の負担の軽減化**
- 各種役員の選出にあたり、広く公募する。
  - 役員を一人で務めるのではなく、複数人で担当するなど負担軽減を図る。
  - 誰かに頑張ってもらうのではなくみんなで頑張ることで地域を良くしていく。
  - 役員マニュアルを役員全員で共有する。
  - 役員は各業務のとりまとめ役的な立場にして、実際の業務はもっとより多くの人がチームとなって取り組むように変える
  - 役員間で情報交換の場を設けるために、LINE や ZOOM などの使用環境を整える。
- ① 役員の棚卸し・仕分け**
- 何が課題になっているのかをしっかりと認識し、各種役員の総点検(必要性、効果、やりがい、報酬等)を行い、時代に合った制度へ見直す(廃止も含めて)。
  - 行政から与えられたことだけをこなす様なものではなく、やりがいを感じられるように役員の仕事にある程度の自由度を持たせ、そのことを周知する。
  - 行政役員、隣組の組長には具体的な目標(やりがい)を持たせるようにして、役割に見合った報酬を支払う。
  - 地域の広域性や人口を考慮して、役員の担当エリアを見直す。他の区との兼務も検討する。
  - 区長の人数を見直す。1人で厳しいなら2人(もしくは3人)で就任する。(共同代表みたいなもの)
- ② 役員に関する情報の見える化**
- 各種役員の役割や事務量、やりがい、やることによるメリットを明確にし、市民に周知する。
  - 役員の役割と仕事を明確化するために各役員のマニュアルを作成する。
  - 役員をやりたいという住民が自薦できるように情報開示をする。
  - やりがいを持って役員を務めているお手本になるような人の事例を紹介する。
  - 地域の成功事例を共有する。成果をクローズアップすることで役員のやり

がいにつなげる。

- 実際に役員に助けてもらったことがある人の「地域に役員さんが居てよかった」というような生の声を広めていく。
- 役員情報を明確化することで効率化につなげる。
- 役員を依頼するときに、依頼する人だけでなく地域の人たちにも役員業務を説明し、地域全体で一緒に取り組む雰囲気を作る。
- おおた広報やホームページで役員のことを取り上げて、どんな事しているか、どんなやりがいがあるか、目指す地域コミュニティとは？などを載せて、市民が知る機会を作る。(地域の特色などを紹介して何に困っているか、自慢は何かなどを載せるなど)

### ③ デジタル活用による地域活動の効率化の支援

- 役員同士で LINE や ZOOM など情報共有の場を作る際の仲立ちをする。また、運用する際の一定のルール作りをする(例えば、個人情報保護法に抵触しないために気を付けることや、ネットワーク上のモラルなどについて周知し、最低限の規約を設けるなど)。
- デジタルを活用して役員事務や地域活動の効率化を進め、負担を軽減する。情報弱者への対応や利用促進など、行政が積極的に支援する(例えば、行政から必要な情報を SNS でプッシュ型で市民に発信し、回覧板の廃止など事務の効率化を図るなど)。

## 4 ZY2022(ぜったいやるぞ 2022)

私たちが思い描く地域コミュニティを実現するために  
私たちがイマから出来ること、挑戦したいこと



今年は何か最低一つはボランティア活動に参加する。

【諸林 孔明】

広報紙を読む。

【澁澤 ももこ】

消防団の活動を通して地域に貢献する。

【長谷川 孝行】

地方新聞の地域特集や広報の閲覧。  
行政主催のセミナー等への参加。

【矢野 昌克】

普段話す近所の人から徐々に近所付き合いを今より広げて、自分がいる地域の役員やこれまでのイベント、地域清掃など地域の話題への理解を深める。

【中村 悟市】

太田市 LINE の家族登録と内容把握を徹底。  
地域の実態把握のためにゴミ出しをする(妻に協力)。

【久保田 悟】

子どもの居場所作りなどできたらと思う。

【萩原 佳代】

地域コミュニティの活性のためにも、地元の区長さんにお会いして実際に身近で起きている事柄などのお話を聞いてみたい。

【西村 美弥子】

地域の仕事や行事に参加する機会があれば積極的に参加します！

【横山 亮太】

古くて危険な空き家の撲滅。

【矢作 正夫】

太田市のサイトにまめに目を通して現状把握から始める。

【藤生 健吾】

地域の集まりやイベントに積極的に参加して地域の事を少しずつ理解していく。

【吉羽 新一】

## 5 自分ごとと化会議に出て気づいたこと、変化したこと

～発言やアンケートから、私たちが気づいたことや、変化したことをまとめました～

- 自分の意識が変わらないとアンテナも高くないし、行動を起こさないと何も変わらないということが分かった。
- 年代や、住む地域が異なる人たちの意見を聞くことができてよかった。
- 自分が住んでいる地域以外ではこんなこともあるんだと、共有できたことがすごく楽しかった。
- 色々な人の意見を聞くことで、周りに目を向けることができ、色々な意見があることを知ることができた。
- 太田市の広報やHPなどに以前よりもよく目を通すようになった。
- 行政や地域のことについて以前よりも考えるようになった。
- 行政や地域コミュニティで行われていることに興味を持つことや、身近に感じるできるようになった。
- コミュニティとはもっと大きな枠組みのものと捉えていたが、この会議に参加することで身近なコミュニティに目が向くようになった。
- 近所の人々が普段から立ち話しているのをよく目にしていましたが、こういうことが実は大事なのだと思うようになった。立ち話を見かけたら、時間に余裕があれば加わるようにしている。
- 町内の行事に参加しようとする意識が変わった。
- 地域の活動や役員はしょうがないからやっているという感覚だったが、皆さんと話していくうちにやらされているという感覚から、みんなで地域の活動に参加・協力しているという考え方に変えなければいけないと感じた。
- わかろうとする姿勢が大切なのだと感じた。
- 自分の思いを伝える、話すことでやりたいことへの糸口につながるとコーディネーターに言われてとても嬉しかった。
- 地域のことなどを勉強するようになった。
- ボランティアに参加するようになった。
- 会社で何か不具合などがあつたときに、他人事でなく自分事として考えろと言われていたところに、今回の案内が届いたので参加した。みなさんの意見が聞けて勉強になった。
- 他人事としていたことを自分ごととして考える様になった。
- 行政に対して他人事と考えていたが、自分にできることがあることがわかり、変えられるかもしれないということに気づいた。
- 今まで自分の住んでいる場所について考えることがなかったが、この会議を通じて考えるようになった。県外から引っ越してきて、戻りたいと思うことも多かったが、この会議がこのまま太田に住み続けてもいいかなと思うきっかけにもなった。

## 6 付録:アンケート結果

第1回～第4回会議にて実施した参加委員を対象としたアンケートの集計結果は以下のとおりです。

### 第1回会議参加者アンケート結果

Q1 自分ごと化会議に参加してみてもいいか。

とても良かった	まあまあ良かった	あまり良くなかった	まったく良くなかった	どちらともいえない
18人 (86%)	3人 (14%)	0人	0人	0人

Q2 テーマに関する市の現状について、新しい発見はありましたか。

多くあった	少しあった	あまりなかった	まったくなかった
14人 (67%)	7人 (33%)	0人	0人

Q3 地域コミュニティ(隣組、自治会等)について、課題に感じていることがありますか。

大いにある	少しある	あまりない	まったくない
12人 (57%)	7人 (33%)	2人 (10%)	0人

Q4 地域の行事に参加したり、地区の役員などを経験したことはありますか。

頻繁に参加(経験)している	少し参加(経験)している	あまり参加(経験)していない	まったく参加(経験)していない
3人 (14%)	9人 (43%)	5人 (24%)	4人 (19%)

Q5 太田市をより良くするために、特に重要と思う主体を選択してください。(複数選択可)

住民一人一人	地域の自治会、その他のコミュニティ等	市役所等の行政機関
17件	10件	7件
市議会等の政治機関	民間企業、NPO等	その他
3件	3件	0件

Q6 会議の中で印象に残ったこと、補足したいことがあればご記入ください。(自由記載)

- 地区の中の困りごとなど同じ思いをしている人が多いことがわかりました。
- 10人いれば10人分、色々な意見があるのだなということを知ることができ、大変意義のあるものだったと思います。
- 意見が違う人と話をしていて、反対の立場から物事を考えられて参加してよかったと思いました。
- 色々な人たちと楽しく話し合えたので良かったです。この場に呼んでいただき本当にありがとうございます。子どもの事で気になっていたことが言えたのですごく良かったです。また、よろしくお願いします！
- 区長さんの顔とか名前など考えたことなかったの、自分ごとのようにこれから太田市について考えていこうと感じました。
- いろんな世代の方の意見を聞くことが出来て良かったです。
- たくさん話題、特に自分にはなかった視点を伺うことができ、個人的にも大変有意義でした。今後ともよろしくお願いいたします。
- みなさんの発言で色々考える事柄が増えました。とても楽しかったです。次回も楽しみにしております。有意義な時間をありがとうございました。
- こういう場をやって終わり、見せて終わりではなく市民に”こういう活動もしているんだよ”など、もっとアピールした方がいいと思います。実際、私もこの活動を知りませんでした。
- 最後のまとめをする際に、意見を言うだけでなく聞くだけでもいいと言われて嬉しかったです。次回も参加しようと思います。
- 参加者のみなさんの意見が活発で、太田市に対する思いの高さを感じました。同じテーマ(祭りやスポーツイベント)への考え方も、人それぞれであることを実感しました。
- 他人の意見から色々発見できた。
- 役員の方、長時間お疲れ様でした。
- 地域に役員がいることを知らなかったので知ることができてよかった。
- みなさんの意見を聞いて同じようなことで悩んでいることがわかった。
- 思っていたより活発な意見が出ていてよかった。
- 市をよくしたいという積極的な意見や考えをしっかりとアウトプットできる方が多かった。
- 生活に身近なことだったので考えやすかった。

## 第 2 回会議参加者アンケート結果

### Q1 第 2 回会議に参加してみていかがでしたか。

とても良かった	まあまあ良かった	あまり良くなかった	まったく良くなかった	どちらともいえない
14人 (82%)	3人 (18%)	0人	0人	0人

### Q2 次回以降に向けての要望や今日の感想など、ご自由に記入してください。(自由記載)

- 1つのテーマで深く掘り下げて話し合う機会はなかなかなかったもので、良い経験となりました。色々な考え方があるのがわかり、視野が広がりました。30年後の人口予想が思っていた以上に悪かったことはショックでした。
- 時代の移り変わりによって地域のつながり方が変わってコミュニケーションのあり方をもう一つ考える必要がある。
- 普段関わらない年代の方たちと話せていい機会にできた。アメでグループ分けをするのが遊び心があって面白かった。参加するまでピンと来ていなかったが、考えてみたら地域の運動会などの経験を思い出して気付くことがあった。
- すごく楽しく話し合いができて楽しかったです。今気になっている事とか、色々話せたのですごくよかったです。アドバイスをもらったり、共感してもらえたりいい時間が過ごせました。次回も楽しみにしています。ありがとうございました。来年もよろしくお願いします。
- アメちゃんを利用してグループを決めるのはとても面白いと思いました。太田市に住んでいても知らないことばかりだなと感じた。自分ごと化会議に参加しているから知ってる！ではなく、太田市民だから知ってる！という認識にできればいいなと思いました。
- 自分で住んでいる地域での取り組みを知ることができ大変有意義でした。外から引っ越してきた身として、以前から住まわれている方からお話を伺えるのでとても参考になります。引っ越してきた人や若い世代も、古くからの方々や高齢世代と一緒に住みよいコミュニティづくりに役立てられればと思います。
- 若い世代の方の意見が聞けすごく参考になった。
- 5～6人のグループの方が色々な意見を聞くことができると思いました。机の配置、正面が見えるようにしてほしい。
- 自分の知らない情報の交換や交換できたりと、とても良い会議になったと思う。次回では、役員について行政で見直しを話し合っていていただいて、途中経過でもいいので話してほしい。住民の意見をぜひ役立ててほしい。
- まちづくり基本条例や役員等知らなかったことを知れたので、学びを深められました。地域コミュニティで「変だな？と思うこと」について、最初は意見が出せなかったけれど、「こ

んなコミュニティが嫌だ、良い」という捉え方に変えたら、自分の意見が言えるようになりました。また、他のグループの発表で、違う見方があることを知りました。情報の効率化だけを求めるのではなく Face to Face の利点も意見に挙げていたのが凄いなと思いました。また、笑顔とまごころがなければコミュニティは生まれないというお話に感動しました！

- 今日も活発に話し合いができ、お互いの共感から改善案もたくさん出てきたので良かったです。グループ分けの方法がユニークで、まったくランダムでなく傾向に分かれたのが面白い。
- ピーチ(若者チーム)の発表が参考になりました。
- 年の違う色々な人と太田市について話をするのができてよかった。今まで知らなかった太田市の色々なことを知れてよかった。
- 他の地域の方と話ができてよかった。自分の考えと違う新たな発見があった。
- 勉強になりました。
- まちづくり基本条例を誰も知らない衝撃、条例をつくるのがゴールになっている。目的をより具体的に手法をもっとわかりやすくした方が良い。抽象的な目的、目標は結果が見えづらい。どう伝えるか響かせるかで認知、モチベーションは変わると思います。人口を増やし、労働年齢を上げないといけないことも痛感しました。議論はいろいろな考えや情報を知れてよかったです。
- これからの太田市についての進め方、方法等。

### 第 3 回会議参加者アンケート結果

#### Q1 第3回会議に参加してみても良かったか。

とても良かった	まあまあ良かった	あまり良くなかった	まったく良くなかった	どちらともいえない
8人 (73%)	3人 (27%)	0人	0人	0人

#### Q2 次回に向けての要望や今日の感想など、ご自由に記入してください。(自由記載)

- オンラインでの開催とてもよかったです。次回もできればオンラインが良いと思いました。
- 途中参加でしたが、内容が分かりやすく参加しやすかったです。
- 初の Web 形式となりましたが、全員が 1 チームとなってディスカッションするのもまた良かったと思います。一人が挙げた話題に絡めて次の人が新たな視点も付け加えて、それを次の人も広げて…というようにテーマや課題を深めていけたのが素晴らしかったです。
- 役員のことから、コミュニティの運営、防災のことなど、幅広い意見が出て、それらの課題の解決方法などについてもいろいろな意見が出てきて、非常に参考になり、ためになった会議でした。次回でどのようにまとまっていくのか楽しみです。
- 普段は私は Zoom を使っていないので多少慣れが必要でしたが(仕事では MS Teams です)、こういった”仕事でない”会議も On-Line でも十分できることが証明されたと思います。次回以降もし Zoom を使うのであれば、その場でアンケートを取ったり、チャット機能やブレイクアウトルームの機能なども活用できるともっと活発な議論ができていいのかなと思います。
- 会議は良かったです。フォローありがとうございます。
- 全員が発言する機会を与えて、参加者皆さんのお話が聞けたのでよかった。オンライン会議で顔と名前が一致してお話を聞けたのもよかった。3回目と4回目は日曜日の予定だったが、4回目が土曜日になったので、最後に参加できず残念。
- これからの時代にあった地域コミュニティのあり方を考えるよい機会になりました。世代別で困り事が違う事も理解できるので、この先年齢や世代関係なく、皆が孤立しないように地域コミュニティの大切さや日々の小さな努力でより良い地域にしていく意識が大事だと思いました。
- 何かと忙しい身ですが、3回参加出来て良かったと思います。

## 第 4 回会議参加者アンケート結果

### Q1 全 4 回の自分ごと化会議に参加してみていかがでしたか。

とても良かった	まあまあ良かった	あまり良くなかった	まったく良くなかった	どちらともいえない	無回答
5人 (56%)	2人 (22%)	0人	1人 (11%)	0人	1人 (11%)

#### ■その理由

##### <とても良かった>

- 今まで興味がなかったことをいろいろと知ることができた。
- 普段の生活では話すことがなかったであろう人たちで身近なトピックで話し合えたので良いキッカケをいただいたと思っています。
- まさしく今まで他人事だと思っていたことが、今回会議に参加してみて考え方が変わった。
- 自分の住んでいる市や地区についてできることや関心が持てる様になった。
- ただ住んでいるだけでは分からなかった、地域、太田市のことを知ることができました。

##### <まあまあ良かった>

- 初めは区や行政の事に興味がなかったが持てるようになった
- 若い方との討論、楽しい 4 日間でした。

##### <まったく良くなかった>

- 3/19 の会議はまったく意味がない。途中で退席させていただきました。

### Q2 自分ごと化会議に参加してみて、楽しかったことや良かったことがありましたら教えてください。(自由記載)

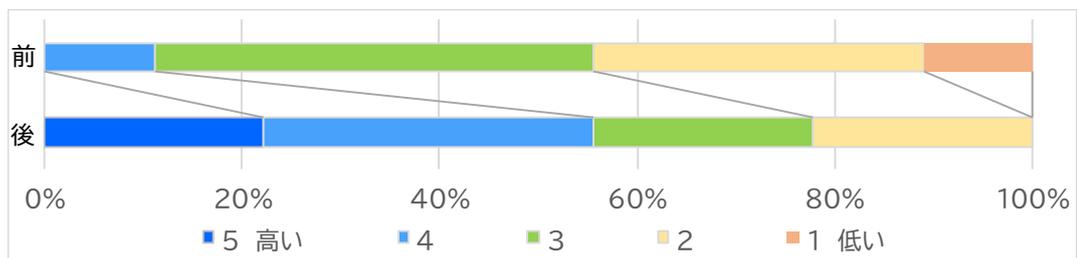
- 年代別の意見や考え方の違いがわかった。
- 年齢(世代)関係なく、色々な方々の意見が聞けたこと。
- 自分の暮らす街について話し合いができてよかった。地域のことについて考えるようになった。
- 行政や地域コミュニティに対してより興味を持つことができたのが良かったです。
- 自分が住んでいる地域以外ではこんなこともあるんだとか、共有ができたことがすごく楽しかった。
- 色々な人の考え方を聞き、周りに目を向けられることができた。(柔軟な考え方)
- 自分の思いを伝える、話すことでやりたいことへの糸口につながると高澤さんに言われてとても嬉しかったです。ありがとうございました。

- 太田市に転入して来た方の意見も聞かれ、地区へ帰って参考にしたいと考えております。
- 市外から引っ越してきた身として、同じく引っ越してきた方や、ずっと太田で暮らしてきた方とお話できて、視野を広げられました。

**Q3 自分ごと化会議に参加した前後で、あなたの税金や行政・議会への関心や地域づくりに関わる頻度など変化はありましたか。**

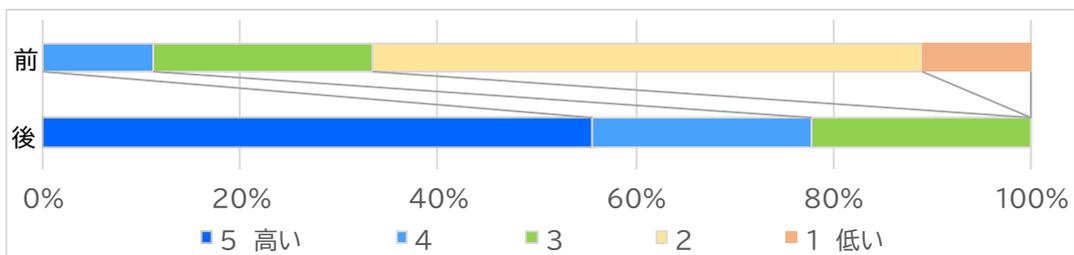
**■税金の使い方への関心**

	5 高い	4	3	2	1 低い
参加前	0人	1人	4人	3人	1人
参加後	2人	3人	2人	2人	0人



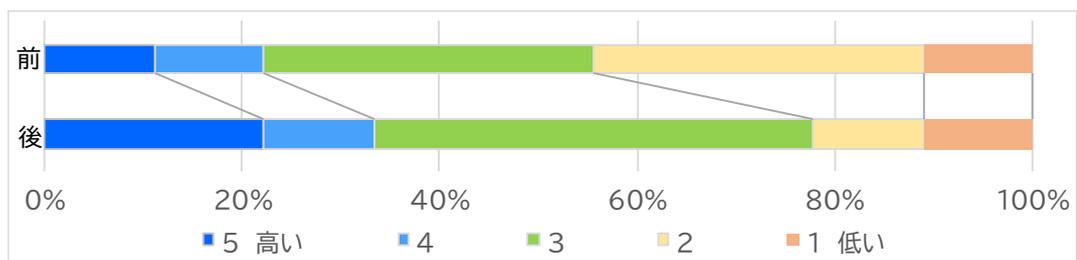
**■行政や議会の情報への関心度(広報紙・HP や議会の傍聴等)**

	5 高い	4	3	2	1 低い
参加前	0人	1人	2人	5人	1人
参加後	5人	2人	2人	0人	0人



**■自治会、ボランティア等地域づくりに関わる集まりに参加する頻度**

	5 高い	4	3	2	1 低い
参加前	1人	1人	3人	3人	1人
参加後	2人	1人	4人	1人	1人



Q4 自分ごと化会議に参加したことで、「意識の変化」はありましたか。

とても変化した	少し変化した	あまり変化していない	まったく変化していない	どちらともいえない
6人 (67%)	3人 (33%)	0人	0人	0人

■具体的に変わった点

<とても変化した>

- 地域のことについて考えるようになった。
- 行政、地域コミュニティで行われていることをより身近に感じるようになった。
- 自分ごとの視点で考える様になった。
- 地域のごみステーションや公園など目が行くことが増えた。
- 近所の人々が普段から立ち話しているのをよく目にしていましたが、こういうことが実は大事なのだと思うようになりました。
- 具体的な解決策のない会議は意味がない。

<少し変化した>

- 町内の行事に参加しようとする意識が変わった。
- 地域で起きている日々の問題など、困っている方。
- 勉強するようになった。

Q5 自分ごと化会議に参加したことで、「行動の変化」はありましたか。

とても変化した	少し変化した	あまり変化していない	まったく変化していない	どちらともいえない	無回答
1人 (11%)	4人 (45%)	2人 (22%)	1人 (11%)	0人	1人 (11%)

■具体的に変わった点

<とても変化した>

- 他人事としていたことを自分ごととして考える様になった。

<少し変化した>

- ボランティアに参加するようになった。
- 太田市の広報やHPなども以前よりよく見るようになった。
- 地区のこと、他地区のことを考えるようになりました。
- 近所の立ち話を見かけたら、時間に余裕があれば加わるようにしています。
- 太田市から配布されている物に目を通すようになった。(HPの閲覧なども)

Q6 テーマ「地域コミュニティ」は、自分ごと化会議で扱うテーマとして適切でしたか。

とても適切だった	まあまあ適切だった	あまり適切ではなかった	まったく適切ではなかった	どちらともいえない
4人 (44%)	4人 (44%)	0人	1人 (11%)	0人

■理由

<とても適切だった>

- コロナ禍でほとんど地域の交流がなくなっていたので、意識改革にとっても刺激になりました。
- 身近なテーマだからよかったです。
- 自分ごとということで、身がしまる思いです。
- 自分たちこそが地域コミュニティをつくる主人公だから。

<まあまあ適切だった>

- 共通の問題について話し合えたこと。
- 身近なテーマの方が考えやすい。
- コロナのタイミングでコミュニティのテーマはハードルが高いと思った。

<まったく適切ではなかった>

- 具体策を追求すべきだ。

Q7 今後、自分ごと化会議で扱うテーマはどんなものが適していると思いますか。(自由記載)

- 医療について。
- 子どもとお年寄りの暮らしについて。
- 市が方針として出した 2050 年のカーボンニュートラルに向かって自分たちは何ができるか。
- 太田市を理解するには？
- 行政のことをもっと深く勉強したい。
- 防犯、防災。
- 難しいと思う。結論が出ないよね。

Q8 太田市をより良くするために、特に重要と思う主体を選択してください。(複数選択可)

住民一人一人	地域の自治会、その他のコミュニティ等	市役所等の行政機関
4件	7件	6件
市議会等の政治機関	民間企業、NPO等	その他
1件	2件	0件

Q9 現在、市の取組やまちづくりに関する活動など興味のある分野はありますか。

興味のある分野がある	特定の分野はないが、市政全般に興味がある	特に興味のある分野はない
4人 (44%)	4人 (44%)	1人 (11%)

■興味のある分野の具体例

- フードバンク、ホームスタート太田
- 子どもに関わること
- 防災

Q10 その他、全体を通じた感想やコメントを自由にご記入ください。(自由記載)

- 実際起きている問題など色々な話が聞けて良かったです。具体的にどうしたらいいのか、考える機会ができました。まだまだ、漠然としていますが、一人一人の意識や行動が大事なのではと思いました。
- 会議に参加できてよかったです。
- 今回このような機会を与えて下さった太田市の担当の方、構想日本のみなさんに感謝です。
- 今回参加する機会をいただき、ありがとうございました。
- 行政に対して他人事と考えていましたが、自分にできることがあることがわかり、変えられるかもしれないということに気づきました。伝える、話すことの大切さを知ることができました。
- 他地区の方の意見を、当地区に帰って、参考にしたいと思います。
- 今回参加させていただいたことは本当に幸運でした。ぜひこういった取り組みを続け、広げていってください。ありがとうございました。
- 地区の中の困りごとなど同じ思いをしている人が多いことがわかりました。
- 10人いれば10人分、色々な意見があるのだなということを知ることができ、大変意義のあるものだったと思います。

# 自分ごと化会議

私に関係ある？ あり！

